

9. 薬学部

(分析項目 I 教育活動の状況 22)

(分析項目 II 教育成果の状況 22)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 30 年度入学者より、一括募集から学科別募集へ変更を行うとともに、学部 1 年次から各学科の目指す「インタラクティブ YAKUGAKUJIN」を育成するためのカリキュラムを再構築した。薬学科では医療現場で医療チームにおいて医師・看護師等の多職種と連携・対応し得る能力を、創製薬科学科では創薬研究者として製薬企業・薬事行政・教育機関等において連携・対応し得る能力を、それぞれ醸成するためのカリキュラムとしており、特に創製薬科学科では研究室配属を従来の 3 年次後期から 3 年次前期に前倒しすることで、早期から研究者志向を持つ人材育成を行っている。
- 独自の語学学習への取組として、米国ノースカロライナ大学（UNC）薬学部と共同で、遠隔会議システムを用いた日米の学生同士による症例検討会を実施している。遠隔会議システムによるリアルタイムでのディスカッションにより、臨床領域における英語での専門的なコミュニケーション能力の向上を図るとともに、日米両国の医療制度等の違いに基づいて治療方針を討議することで、グローバルな観点に基づいた臨床能力の醸成を図っている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。